



公益社団法人

日本小児歯科学会
Japanese Society of Pediatric Dentistry

近畿地方会報

令和5年9月15日発行 No.22



巻頭言

過ぎてみれば

日本小児歯科学会近畿地方会 常任幹事

大阪歯科大学歯学部小児歯科学講座 准教授 阿部 洋子

2020年に UNICEF から発表されたレポートカード16「先進国の子どもの幸福度を形作るものは何か」によれば、精神的、身体的、社会的な側面から総合的に評価した日本の子どもの幸福度は38か国中、総合順位で20位という結果でした。

この調査の内訳をみると、〈精神的幸福度〉は「生活満足度が高い15歳の割合と15～19歳の自殺率」の結果から総合37位で、生活全般への満足度を0（考え得る最低の生活）～10（考え得る最高の生活）までの6段階以上と答えた15歳が日本では62%で、トルコに次いで2番目に低い結果を示していました。〈身体的健康〉は「5～14歳の死亡率と5～19歳の過体重/肥満の割合」の結果から総合1位、〈スキル〉は「数学・読解力で基礎的習熟度に達している15歳の割合と社会的スキルを身につけている15歳の割合」の結果から総合27位となっていました。社会的スキルとは、「すぐに友達ができる」と答えた子どもの割合で、日本はチリに次いで2番目に少なく、30%以上の子どもがそうは思っていないという結果でした。また日本の15歳の約17%が月に数回以上いじめられたと答え、頻繁にいじめを受けている子どもの方が、そうでない子どもより生活満足度が低いという結果がすべての国で示されました。

日本のデータはないものの、レポートカード16では、より多く外で遊ぶ子どもの方がより幸せであるという結果が示され、新型コロナウイルス感染症の影響で子どものインターネット利用時間が10年前の2倍近く伸びたことによる精神的健康への影響が注目されましたが、いじめられることの影響に比べれば1/4であったと報告されています。

今や疾病、貧困、虐待、不登校、非行などといった理由がないにもかかわらず、自尊心の低さから個人と環境の相互作用の中で困難を感じ、「生きづらさ」を抱える子どもは、広く一般的

に存在していると考えられています。3年に及ぶコロナ禍生活を経て、これまで以上に子どもたち一人ひとりに必要な多面的な支援が実現し、安心して成長できる国になることを願ってやみません。

折しも2027年第31回国際小児歯科学会大会が大阪で開催されることが決まりました。仲野和彦先生をはじめ多くの方々の熱意の賜物と存じます。近畿地方会で大いに盛り上げましょう。まずは私たちの元気を子どもたちに届けてみませんか。

第62回日本小児歯科学会大会

大会テーマ 「支えよう！子どもの笑顔と明るい未来
～歯科から育む心とからだ～」

大会期日 2024年5月16日（木）・17日（金）

会 場 横須賀芸術劇場
〒238-0041 横須賀市本町3-27
TEL 046-828-1600
<https://www.yokosuka-arts.or.jp/information/access/>

大会長 木本 茂成（神奈川歯科大学小児歯科学講座 教授）

近畿地方会県別会員数（R5年7月現在）

	正会員	準会員	名誉会員	会員数合計	専門医指導医	専門医 (指導医を含む)	認定医	認定歯科衛生士
滋 賀	36	3	0	39	1	9	1	1
京 都	58	1	0	59	2	10	0	4
大 阪	352	33	2	387	17	78	8	18
兵 庫	161	19	3	183	4	45	2	4
奈 良	38	6	0	44	1	7	2	3
和 歌 山	18	2	0	20	0	2	0	0
合 計	663	64	5	732	25	151	13	30
全 国	4,541	466	40	5,047	229	1,093	73	148



FGF23 関連低リン血症性くる病の疾患啓発プロジェクト

大阪大学大学院歯学研究科小児歯科学講座 准教授

大川 玲奈

私たち大阪大学大学院歯学研究科小児歯科学講座では、乳歯の早期脱落から低ホスファターゼ症の診断につなげるための啓発活動を行ってきました。約8年前に近畿からスタートした啓発活動も、おかげさまで全国的に広がりました。また、近畿一円のご開業の歯科の先生方からは、低ホスファターゼ症の疑いで、多くの患者様をご紹介いただけるようになり、必要であれば小児科をご紹介し、診断を受けていただくという医科と歯科の連携体制を確立することができました。最近では、出生後、成長発育に問題を抱えていたにもかかわらず、医科で未診断だった患者さんも、地域の歯科の先生の気づきをきっかけに、診断に至った症例も増えてきています。

次の試みとして、FGF23 関連低リン血症性くる病の患者さんの歯科症状について啓発活動を開始することにしました。本疾患の患者さんにおいては、疾患特有の歯科症状が認識されずに困られている方も多くおられます。本疾患の患者さんは低ホスファターゼ症の患者さんよりも頻度が高いため、日常臨床でも遭遇されることがあるかもしれません。最近、患者さんに本疾患の歯科症状についてご説明いただくための疾患パンフレットを協和キリン社の協力のもと作製しました。ご希望があれば、診療室や歯科医師会に何部でもお送りさせていただくことが可能です。下記の担当者までご請求いただければ幸いです。

協和キリン株式会社 メディカルアフェアーズ部
メディカルサイエンスユニット 前川久幸様
hisayuki.maegawa.qm@kyowakirin.com

以下のサイトもご参考にしていただければ幸いです。
FGF23 関連低リン血症性くる病・骨軟化症の情報サイト「くるこつ広場」

<https://www.kurukotsu.com>



疾患啓発パンフレットの表紙



第31回国際小児歯科学会大会日本開催決定までの軌跡

大阪大学大学院歯学研究科小児歯科学講座 教授
日本小児歯科学会 国際渉外委員長 仲野 和彦

6月14日にオランダ・マーストリヒトで開催の国際小児歯科学会（International Association of Pediatric Dentistry；IAPD）Council Meeting で、第31回 IAPD 大会の日本開催が承認されました。私は、その過程に深く関わりましたので、記憶が新鮮なうちにその詳細を先生方にお伝えしたいと思うとともに、この次に誘致活動を行う未来の先生方に参考にしていただきたいと考えました。長い文章になりますが、お付き合いいただければ幸いです。

昨年の春に、日本小児歯科学会の国際渉外委員長に就任して、IAPD 大会誘致の先頭に立ってほしいとの要請をいただきました。当時、私は就任後2年間徹底的に準備して、第32回大会の誘致を目指すことをご提案いたしました。しかし、会員の先生方の多くができるだけ早い開催を希望しているということを説得され、ほぼ準備期間のないまま誘致活動に突入していくことになりました。

まず行ったのは、様々な情報収集です。しかし、具体的な策も見えてこない中、昨年の8月に大阪で第1回国際渉外委員会を開催いたしました。委員の先生方から、様々なご意見やご助言をいただき、少し先が見えてくるような思いでした。また、これまでに IAPD 大会の多くに参加されてきた企業の方々にも、色々な話をうかがいました。特に、いつもランクの高いスポンサーを務めてこられてきた松風の方々には、詳細な情報をいただき戦略が少し見えてきました。

その後、10月に IAPD Board Member の Young J. Kim 先生（Seoul National University）とソウルでお会いする機会をいただきました。その際に、これまでの経緯をご教示いただくことができ、具体的な戦略が見え始めました。次に、11月にローマで開催された IAPD Global Summit に参加する機会を得ました。そこで、これまでに大阪大学を訪問され面識のあったブラジルの Marcelo Bönecker 先生（当時 Immediate Past President）から、Board Member の先生方をはじめとして、多くの先生方をご紹介いただきました。そして、その一人ひとりから、日本誘致に関するアドバイスをいただきました。

多くの話を勘案すると、最大の課題として挙げられたのは、現在の日本小児歯科学会が内向きになっているということだと感じました。特に、2000年代から現在にかけて、その傾向が感じられているようでした。そこで、まず多くの会員の方々に IAPD の存在自体を知っていただき、IAPD 会員を増やすための活動を行うことにしました。突貫工事でしたが、秋に開催の全ての地方会大会でキャンペーンブースを設置させていただきました。また、卒後5年までの会員に対して IAPD 会員になるためのサポートを行わせていただきました。その結果、日本の会員数が IAPD 全体の1割に達し、トップになることができました。

次に取り組んだのは、もう1つの課題としてご指摘いただいた、日本開催の大義名分です。2、3か月悩み抜きましたが、「温故知新」をキーワードにすることにしました。1991年に京都で開催した第13回大会をベースにして、現在までの30年を振り返り、世界の小児歯科関係者ととも未来に向かっていきたいということを、前面に押し出すことにしました。また、アジアにおける考え方や知見を世界各国の人に知っていただくことが、現在世界各国で直面している様々な課題に対する解決法を見出すのに役立つに違いないということをアピールしたいと考えました。そして、何よりも多様性を重んじるこの時代だからこそ、アジアでの開催が必要であると主張したいと思いました。

IAPDは、日本で開催された1991年に、International Association of Dentistry for Children (IADC) から名称が変更されました。まさに、現在の IAPD が産声をあげた象徴的な年の開催になります。これ以降のアジアでの開催は、2007年の香港、2013年のソウルと続きますが、2020年代にはまだ1つも行われておりませんでした。このままではアジアの存在感の低下につながると考え、2027年に日本で開催することは大変意義のあることだと確信いたしました。そして、そのような思いを込めて正式に立候補を表明いたしました(資料1)。

次のステップは立候補書類の作成です。まず、数十ページに及ぶ立候補に関するガイドラインを熟読し、求められる全ての項目をピックアップしました。そして、文章を作成し画像を用意して何度も修正を繰り返し3か月かけてようやく完成させて、今年の3月に提出いたしました。その後、立候補しているのが、オーストラリア、カナダ、スイス、台湾、日本であることが分かりました。また、選考委員会による書類選考を1位の評価で通過していることも内々に知らされ、6月12日のプレゼンテーションを迎えることになりました。

私たちチーム3名(写真1)は6月9日夜に伊丹空港を立ち、翌日の夜にアムステルダムに到着しました。その後、電車で移動し、11日にマーストリヒトに入りました。現地は日本よりも暑く、日中に気温は30℃ほどにも達していたのですが、宿泊したホテルにはエアコンがなく、小さな扇風機を回し寝苦しい夜でした。窓を開けていたら虫が入ってきて、大変な目に遭いました。まさに、アウェイの洗礼を受けている気持ちになりました。12日は午前中にホテルの部屋で最後のリハーサルを行い、13時過ぎに学会開催の会場に向かい、スライドの試写と段取りの説明を受けました。そして、書類選考の評価順にプレゼンテーションを行うとのことを知らされ、14時頃からトップバッターでプレゼンテーションを開始しました。



写真1 プレゼンテーション終了直後

プレゼンテーション会場は、30平米くらいの小さな部屋で、選考委員5人のうち3人が会場におられ、2名はオンライン参加でした。私がプレゼンターを務め、スライドの操作は大川玲奈・大阪大学准教授が担当し、会場のマネジメントは仲野道代・岡山大学教授が行いました。20分のプレゼンテーション(最後に添付)を終了しホッとしたところ、5分と聞いていた



The Japanese Society of Pediatric Dentistry

October 4, 2022

Dr. Ari Kupietzsky
Secretary General
International Association of Paediatric Dentistry

Intent to bid for 31st Congress of IAPD, 2027

Dear Dr. Kupietzsky,

This letter is to inform you that the Japanese Society of Pediatric Dentistry (JSPD) wishes to place a bid for the 31st Congress of IAPD in 2027 to be held in Osaka, Japan. Osaka is the largest metropolitan area in the western part of Japan and currently preparing to host EXPO 2025, thus is ready to accept many foreign visitors, especially in 2027. The city is famous for its unique and vibrant culture, and also located within short distances of Kyoto, Kobe, and other attractive areas in the Kansai region.

The IAPD Congress was held in Kyoto in 1991, more than 30 years ago. In addition, there have been no congresses in Asia since the one held in Seoul in 2013. We consider it important to organize a congress in Japan in the near future and the JSPD will be proud to serve as host. We would be very pleased for your consideration of Osaka as a candidate for the 31st Congress of the IAPD.

Sincerely,

Prof. Seikou Shintani
President, JSPD
Tokyo Dental College

Prof. Kazuhiko Nakano
Chair, International Affairs of JSPD
Osaka University Graduate School of Dentistry

質疑応答が延々に行われました。多分、15分以上は続いたかと思います。その途中で、紋付袴姿の田中晃伸先生が駆けつけてくださいました。審査委員からは「SAMURAI」と声をかけられていました。田中先生には、会計に関する質問に明確に答えいただき、審査委員は全員納得されたようでした。

ようやく数か月に及ぶ緊張から解放され、会場に隣接するホテルのバーで、田中先生にビールとワイン3杯をご馳走になりました。その後、街中のレストランに移動して、慰労会を催してくださいました（写真2）。このお店の食べ物が美味しいものだったことはよく覚えているのですが、具体的に何だったかがどうしても思い出せません。きっと、極限状態から解放されて、頭が真っ白になっていたからではないかと思います。



写真2 田中先生による慰労会

翌日の夕方に、選考委員会での審査結果がメールで送られてきました（資料2）。選考委員会で日本が最高評価であり、翌日の役員会で日本での開催が内定したというものでした。喜びもつかの間、文面の終盤に、翌日開催の Council Meeting で正式決定するので、動画を準備しておくようにとの記載がありました。よく意味が分からず、すぐに役員の先生や事務局の先生などに確認したところ、「いつもやっている感じで」ということでした。実は、私自身この会議に初めて参加するため、「いつもの」ってどんなもの？ということを確認すると、細かく教えてくださいました。

それから、ホテルに戻って徹夜の作業が始まります。とりあえず持参している資料等の中で使えるような素材を洗い出し、大阪観光局作成の動画などを集め、パワーポイントにセリフを吹き込み、、、まさに「クライマーズ・ハイ」のような状況で作業に没頭しました。その日に若手スタッフを引率してきた鋸屋侑布子・大阪大学助教には、長旅を経てマーストリヒトに到着したばかりにも関わらず、深夜の作業に嫌な顔ひとつせずにつき合っていたことには、感謝の思いで一杯です。翌日の Council Meeting には齊藤一誠・朝日大学教授とともに参加でしたので、動画などの操作を全てお願いできました。私はというと、意識朦朧の中で何かをお話ししていたような感じです（写真3）。そして、この会議で正式な承認をいただき、晴れて日本開催が決定いたしました。



写真3 「日本開催」の紹介プレゼンテーション



The Global Voice for Children's Oral Health

President

Dr. Jorge Castillo (Peru)

Immediate Past President

Prof. Marcelo Bönecker (Brazil)

President Elect

Prof. Figen Seymen (Turkey)

Editor

Prof. James Crall (USA)

Secretary General

Dr Ari Kupietzky (Israel)

**Representatives for National
-Member Societies**

Prof. Varinder Goyal (India)

Prof. Young J. Kim (South Korea)

Prof. Norman Tinanoff (USA)

Dr. Marietjie Weakley (South Africa)

13 June 2023

Dr. Seikou Shintani
President
Japanese Society of Pediatric Dentistry (JSPD)

Dr. Kazuhiko Nakano
Chair of International Affairs, Congress President
Japanese Society of Pediatric Dentistry (JSPD)

Dear JSPD Representatives,

The Congress Site Selection & Coordination Committee (CSS&C) extends its sincerest appreciation to your Society for submitting a bid to host the 31st Congress of the International Association of Paediatric Dentistry in 2027. We acknowledge the dedication and effort you have put into preparing your bid.

The decision-making process was a challenging one, as all the bids received were of exceptionally high quality. After a comprehensive evaluation and extensive deliberation, the CSS&C Committee arrived at a unanimous recommendation to award the 2027 IAPD Congress to the Japanese Society of Pediatric Dentistry (JSPD), with the event scheduled to take place in Osaka, Japan. This recommendation was subsequently unanimously endorsed by the Board of Directors (BOD). We therefore invite you to be present at the upcoming Council Meeting in Maastricht, the Netherlands on 14 June 2023, 0.10 Sydney (Floor: -1), MECC for final ratification. When the meeting concludes and ratification is complete, you will be requested to play a video to invite Council members to the Congress in Japan.

The official announcement and signing of a financial agreement will follow once the BOD's recommendation is ratified by the Council (16:00 on 14 June 2023).

We extend our heartfelt congratulations to the Japanese Society of Pediatric Dentistry for their outstanding success in securing the opportunity to host the 31st Congress of the International Association of Paediatric Dentistry in 2027. Your exceptional bid, which highlighted the connectivity and accessibility of the destination, as well as the unwavering support from both society and the industry resulting in an affordable registration rate, truly set you apart. We have no doubt that your dedication and expertise will contribute to an unforgettable and enriching experience for the international community. We look forward to witnessing the remarkable congress you will host in Osaka, Japan.

If you have any questions or require further clarification, please do not hesitate to reach out to us.

Sincerely,

Jorge Castillo
President

Ari Kupietzky
Secretary General

Anna Maria Vierrou
Chair, Congress Site Selection
and Coordination Committee

その後、IAPD 会員向けの6月のE-Newsで、2027年の大阪開催決定が周知されました(写真4)。ここからがスタートですので、2027年6月に世界各国の方々を日本にお迎えする準備に「オールジャパン」で臨んでいくことが重要かと思えます。私自身、いま一つの通過点を経験させていただいて、次に私のような役を担う未来の先生にエールを込めて、この文章を書かせていただきました。この後に、プレゼンテーションに用いた資料の詳細を提示させていただくのは、誘致に関して私が世界各国の方々にお話しした内容を多くの人に知っていただきたいからです。この内容をもとに期待して世界各国から日本にやってくる方々に、日本小児歯科学会が、そして近畿地方会が、一丸となっておもてなしできれば大変ありがたいことだと切に願っております。

なお、立候補書類に関しましてはA4サイズで77ページほどありますので、ここでは割愛させていただきます。学会事務局に保管していただいておりますし、私自身が持っておりますので、ご覧になりたい場合はいつでもお声をおかけください。

(追伸) 開会式での旗振りにご参加いただいた先生方、どうもありがとうございました(写真5)。100名ほどはおられたと思います。日本の存在感を十分示すことができました。会場で金澤真亨先生にお会いして、写真を撮らせていただきました(写真6)。雑務ばかりしてしまいましたので、会場で近畿地方会の他の先生方にはあまりご挨拶できませんでした。どうかご容赦ください。

JSPD selected to Host the 2027 IAPD Congress in Osaka, Japan

Congratulations to the Japanese Society of Pediatric Dentistry for winning the bid to host the 2027 IAPD congress. We have no doubt that the JSPD will deliver an outstanding congress, showcasing the best of Japanese paediatric dentistry while providing a valuable platform for global collaboration and professional growth.



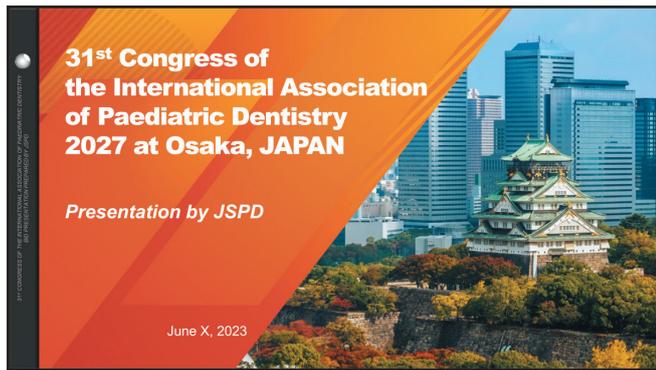
写真4 大会決定に関する書類の調印時



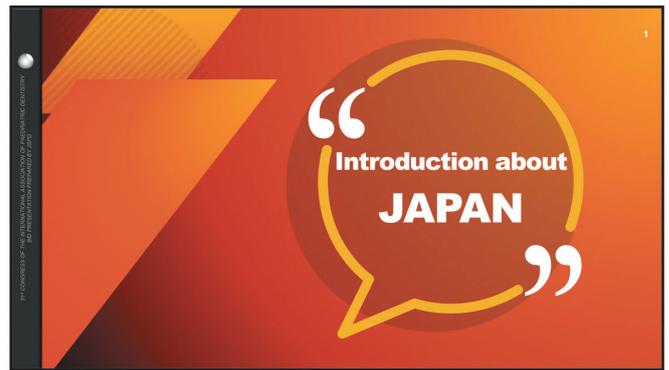
写真5 開会式での“JAPAN”コール時



写真6 金澤先生と会場にて



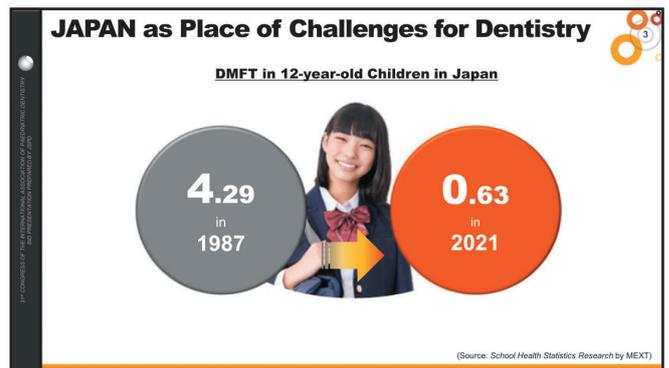
【Slide 0】



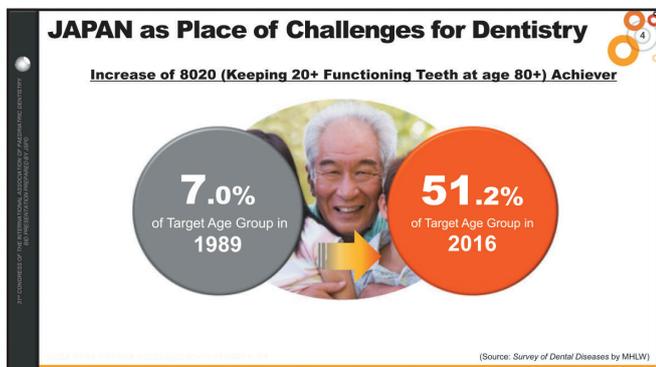
【Slide 1】



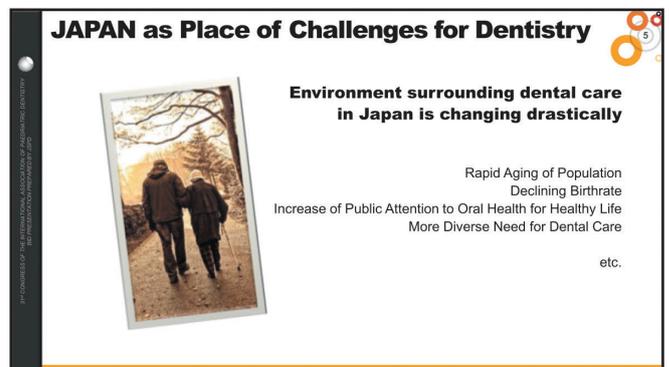
【Slide 2】



【Slide 3】



【Slide 4】



【Slide 5】



【Slide 6】



【Slide 7】

【Slide 0】 Thank you very much, honorable doctors and professors. Good afternoon. Before the presentation, I sincerely appreciate your inviting us today. I am Kazuhiko Nakano, Professor and Chair of the Department of Pediatric Dentistry at Osaka University Graduate School of Dentistry. And I am also serving as the Chair of the Committee of International Affairs of the Japanese Society of Pediatric Dentistry, or JSPD. On behalf of our society, I would like to present some important details regarding our bid to hold the 31st Congress in Osaka, Japan. To make sure that we can finish our presentation within the given time, we would appreciate your questions after the presentation.

【Slide 1】

【Slide 2】 Leaving the history and geography of Japan to Wikipedia and Lonely Planet to explain, from the aspect of dental care, Japan is a country that has made significant progress over the past 30 years and, at the same time, has entered a new phase of challenges unprecedented in the world.

【Slide 3】 The last Congress of the IAPD held in Japan was the 13th, in Kyoto in 1991. In the past 30 years to 2021, the number of dental caries in 12-year-old children in Japan decreased significantly.

【Slide 4】 Furthermore, as a result of the 8020 Campaign, launched during the same period to maintain 20 or more teeth at age 80 or older, the number of people who have achieved 8020 has dramatically improved.

【Slide 5】 On the other hand, the environment surrounding dental care in Japan is changing drastically, basically due to the rapid aging of the population and declining birthrate. Attention to oral health as an essential factor in maintaining general health and extending healthy life expectancy is increasing, and the need for dental care is becoming even more diverse. Japanese dentistry has entered an era of new challenges ahead of the rest of the world.

【Slide 6】 Against this backdrop, our society celebrated its 60th anniversary last year since its founding in 1963. The number of members is approximately 5,000, including 33 corporate members, which support various activities performed by our society. The 13th Congress of the IAPD hosted in Kyoto was our proud milestone, with 1,300 participants from 34 countries. It was an important and historic occasion as the association was renamed “International Association of Paediatric Dentistry” from “International Association of Dentistry for Children” at the close of this congress.

【Slide 7】 Six years after the congress in 1997, our society organized the Pediatric Dentistry Association of Asia, or PDAA. The society has provided excellent opportunities to share highly unique findings and significant learning from an Asian context. Having taken the initiative in coordinating pediatric dentistry among Asian countries for over 25 years, we feel ready to extend those to the world. Moreover, now is the last moment in that both members who attended the congress in Kyoto in their youth and are now leading researchers and up-and-coming members can attend the same congress simultaneously.

Timing-wise and location-wise, Japan will be the critical hub that can provide wide-ranging opportunities for the globalization of the JSPD and the IAPD by promoting closer exchanges between east and west, senior and junior.

JSPD as Host of Conferences

PDAA 2016, Tokyo
May 26-28, 2016
2,014 Delegates from 37 Countries

JSPD Annual Congress
1,500 - 2,000 Delegates, including approximately 30 from KAPD

【Slide 8】

JSPD as Host of Conferences

Other Conferences Operated by The Oral Health Association of Japan, Our Partner

Founded in 1941, the general incorporated foundation has specialized management of dental-related academic conferences and meetings, and academic publications. JSPD will manage IAPD 2027 in cooperation with the professional with know-hows and expertise, as in PDAA 2016.

- The 12th International Conference of Asian Academy of Preventive Dentistry**
May 27-29, 2018/Tokyo
A total of 900 participants, 15 participating countries in all.
- The International Dental Materials Congress 2016**
November 4-6, 2016/Indonesia
A total of 300 participants, 7 participating countries in all.
- 10th International Federation of Esthetic Dentistry**
September 14-16, 2017/Toyama
A total of 1200 participants, 20 participating countries in all.
- The 22nd Japanese Society of Conservative Dentistry/Korean Academy of Conservative Dentistry Joint-Scientific Meeting**
November 15-20, 2020/Wako
A total of 1500 participants, 3 participating countries in all.
- The International Congress on Adhesive Dentistry Congress**
June 3-5, 2022/ Hokkaido
A total of 400 participants, 9 participating countries in all.

【Slide 9】

JAPAN as Vision of Our Future

“Come to Japan, and you will witness what could happen to paediatric dentistry in your country.”

【Slide 10】

JAPAN as Globalizing Country

Japan's Aspiration to Be Even More International

【Slide 11】

Venue and Accommodation Facilities

【Slide 12】

OSAKA, Highly Networking City

- Date**
June 2-5, 2027
- City**
Osaka, JAPAN
- Venue**
Osaka International Convention Center, aka *Grand Cube Osaka*

【Slide 13】

OSAKA, Highly Networking City

Kansai International Airport (KIX), the International Gateway to Osaka

92 Cities in 24 Countries Directly Connected (#2 in Japan, 2019)
Convenient Access to City Center (approx. 60 min)

Number of Int'l Flights per Week (Summer 2019) and Access to City Center

- #1: Narita (1,697.5) ...90-120 min. to Tokyo
- #2: Kansai (1,285.5) ...60 min. to Osaka
- #3: Haneda (811.5) ...60 min. to Tokyo

【Slide 14】

OSAKA, Highly Networking City

- Date**
June 2-5, 2027
- City**
Osaka, JAPAN
- Venue**
Osaka International Convention Center, aka *Grand Cube Osaka*

【Slide 15】

【Slide 8】 In fact, JSPD held 10th PDAA congress in Tokyo in 2016, which was a great success in cultural and knowledge exchange. And it holds a large national congress every year.

【Slide 9】 To reinforce IAPD 2027's management and operation, JSPD will partner with The Oral Health Association of Japan, which has extensive experience in organizing international congresses of Japanese dental societies.

【Slide 10】 Speaking of now and the future, I explained in the beginning that Japanese dentistry had entered an era of new challenges ahead of the rest of the world. It implies that the era is coming to any country sooner or later, or you might have been at the doorstep already. The decline of birthrate, following changes in disease structure, shifts in social systems such as medical insurance... Japan is trying to cope with new challenges under the circumstances. We are eager to share all the novel findings and the insightful struggles in investigations of child cases in Japan with you, hoping to help you better prepared to tackle such a situation in your context. Please use this opportunity as a ticket to a ride in a time machine.

【Slide 11】 Another thing to mention about Japan is the aspiration for globalization, especially in communication. English has become more important as a lingua franca, and more public services are available in English. As for the JSPD, more members are learning to deliver presentations in English for global opportunities. Therefore, holding the 31st IAPD Congress in Japan will certainly encourage our members. We hope that the IAPD members will consider Japan's reasons, enthusiasm, and eligibility for the 31st IAPD Congress.

【Slide 12】

【Slide 13】 We believe that Osaka is the ideal venue for the congress. The city has two airports as the center of the Kansai region and the largest city in western Japan.

【Slide 14】 One is our country's second largest international airport, with many direct flights arriving from and departing to European and American cities, and the other is a major domestic hub. They are far closer to Osaka city center than Narita International Airport is to Tokyo city center.

【Slide 15】 In addition, we also have two national train terminals, including one for the bullet train and the other for regional and local lines, as well as all types of advanced public transportation networks, such as trains, subways, buses, and taxis. Since being chosen as the venue of EXPO '70, the first world fair held in Asia, the city has proven its remarkable capabilities in countless international events. Furthermore, it will soon be featured as the EXPO 2025 venue.

【Slide 16】 As for the 31st IAPD Congress facility, we propose the Osaka International Convention Center, or OICC. It is located in the Nakanoshima district in central Osaka and has often served as a primary base for various cultural and economic exchange activities. Coincidentally, the Osaka University School of Dentistry had been located in an area quite near the OICC until 40 years ago. The Nakanoshima district offers the best of urban functionality. It is serviced by various transportation systems, making the OICC ideally serve as a place where people worldwide can meet and interact. The OICC aims to be one of the world's major convention facilities and a new symbol for the international city of Osaka. We believe that the capacity and layout of the OICC, as shown in our bid paper, are sufficient for a highly successful IAPD Congress.

OSAKA, Global Crossroad

Osaka International Convention Center (OICC)

Date
June 2-5, 2027

City
Osaka, JAPAN

Venue
Osaka International Convention Center (OICC), aka Grand Cube Osaka



【Slide 16】

OSAKA, with Wide Choice of Accommodation



RINGA Royal Hotel ★★★★★
1,439 rooms, adjacent to the venue
¥12,000/person/night

8th Congress Hotel ★★★★★
473 rooms, 6 min. by car from the venue
¥15,000/person/night

Hilton Osaka ★★★★★
562 rooms, 7 min. by car from the venue
¥31,000/person/night

The Westin Osaka ★★★★★
304 rooms, 9 min. by car from the venue
¥28,000/person/night

Hotel Hankyu International ★★★★★
168 rooms, 10 min. by car from the venue
¥28,000/person/night

Imperial Hotel Osaka ★★★★★
351 rooms, 15 min. by car from the venue
¥28,000/person/night

Hotel New Otani Osaka ★★★★★
522 rooms, 17 min. by car from the venue
¥18,000/person/night

Osaka Marriott Miyako Hotel ★★★★★
380 rooms, 15 min. by car from the venue
¥33,000/person/night

etc.

【Slide 17】

Main Theme and Keynote Speakers

【Slide 18】

Main Theme

Looking to the Future of Paediatric Dentistry

Inspired by a Japanese proverb;

温故知新
on – ko – chi – shin
(warm – old – know – new)

meaning "warm up the old again to know the new".



【Slide 19】

Special Symposium and Pre-Congress

Special Symposium

Looking to the Future of Paediatric Dentistry - From Asia towards the World
Paediatric Dentistry in Asian Countries - Current Situation and Future Strategies

Suggested Speakers:
FDIA members: Representatives from China, Korea, Hong Kong, India, Indonesia, Japan, Malaysia, Philippines, Singapore, Taiwan, Thailand

Pre-congress Seminar

- Looking to the Future of Dental Materials Application
Suggested Speakers: Prof. Satoshi Imazato (JPN), Prof. Jack L. Ferracane (USA), Dr. Alireza Moshaverinia (USA)
- Looking to the Future of Dental Caries Management
Suggested Speakers: Prof. Mikako Hayashi (JPN), Prof. Nigel Pitts (GBR), Prof. Francisco Ramos-Gomez (USA)



【Slide 20】

Sponsor Symposium

Sponsor Symposium

- Looking to the Future of Silver Diamine Fluoride (BEE BRAND MEDICO DENTAL CO., LTD.)
Suggested Speakers: Prof. Mizuo Nishino (JPN), Dr. Yassmi O. Crystal (USA), Prof. Chun Hung Chu (HKG-CHN)
- Looking to the Future of Management for Hypophosphatasia (Alexion Pharmaceuticals, Inc.)
Suggested Speakers: Dr. Riana Chaves (JPN), Prof. Agnes Bloch-Zupan (FRA), Prof. Martha J. Sommerman (USA)
- Looking to the Future of Bioactive Material S-PRG (SHOFU, INC.)
Suggested Speakers: Prof. Bonnet T. Amarech (USA), Dr. Daniela Rios (BRA), Dr. R.A.M. (Roo) Esterkate (NLD), Dr. Antonette Lopes Barth (BRA), Dr. Erasmo Passarelli (PERU), Dr. Anelisa Daher (BRA)



【Slide 21】

Budget

【Slide 22】

Revenue

Registration: \$380,000

JSPD's Fund: \$700,000

Osaka Convention Bureau: \$43,000

Osaka Tourism Agency: \$14,000

JSPD's Official Sponsors



【Slide 23】

【Slide 17】 Accommodations in all price ranges are also widely available and, above all, public safety on a global level is evident. Compared to Tokyo, commodity prices in Osaka, including hotel accommodations, are typically lower. The number and capacity of such facilities are adequate to host many international and national events, so the cost of lodging is not likely to rise dramatically. Furthermore, in recent years, with the active entry of foreign-affiliated luxury hotels into the Osaka market and the opening of new budget hotels, there is an ever-increasing range of options to choose from. For further details, please refer to our Bid Paper.

【Slide 18】 We propose the congress's main theme to be

【Slide 19】 “Looking to the future of paediatric dentistry”.

For the 1991 congress held in Kyoto, the main theme was “The approach to better dental care for children toward the 21st century.” We would like to look back at the previous thirty years and use evidence from the past to move forward to the future with purpose.

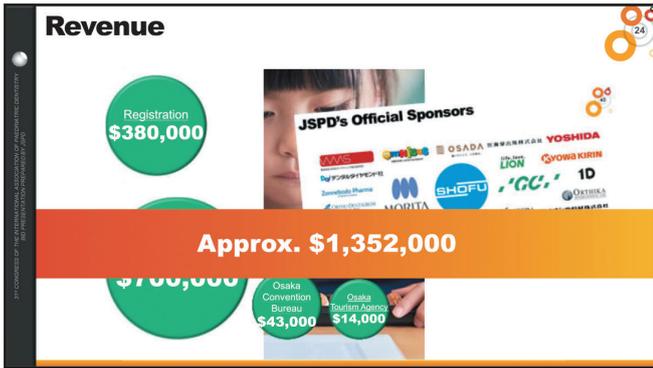
There is a famous Japanese proverb consisting of four kanji characters, 温故知新 (onko-chishin, or translated as, “warm up the old again to know the new”). It means re-learning about or giving a fresh interpretation of the past to develop new knowledge and ideas and carry them into new fields. At the 31st IAPD Congress, we intend to focus on attempts to reveal innovative and progressive information by studying and understanding past discoveries. In 1991, the JSPD hosted the IAPD Congress in Kyoto, with more than 30 years passing since that event. Now, most of the members of the JSPD who were in charge of hosting that congress will soon retire. So, this exceptional international conference may be one of the final opportunities for us to generate the live interaction between the knowledge of long-term experts with that presented by young pediatric dentists. The quality of the interaction will be significantly enhanced by the involvement of third-party perspectives, namely attendees from other countries, and thus provide valuable outcomes that will give clear foresight into the future of pediatric dentistry.

【Slide 20】 We will also prepare a special symposium showing the current situation and discussing future strategies by PDAA members. At this symposium, participants will be able to understand Asian perspectives to generate ideas for solving problems faced in their countries. In addition, we expect that the participants, especially non-Asian members, will have an excellent opportunity to understand diverse points of view. Furthermore, the fusion of such knowledge has the potential to produce groundbreaking concepts to provide better oral health worldwide into the future. For the pre-congress, we intend to prepare seminars related to dental materials and dental caries management related to pediatric dentistry.

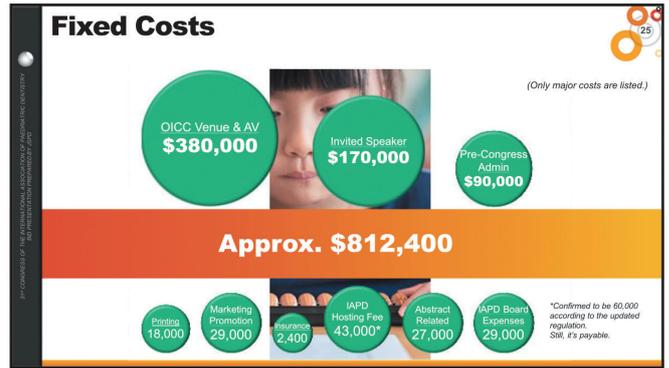
【Slide 21】 In addition, three sponsored symposiums will be provided. The first will be on silver diamine fluoride, invented at Osaka University in the 1960s. The second will focus on the skeletal disease hypophosphatasia, as a radical treatment for that condition has been initiated in Osaka. The third symposium will be about a unique dental material termed S-PRG developed by SHOFU, a company whose headquarter is located nearby in Kyoto. In addition, we are planning 14 parallel symposiums covering various topics, each of which we hope will help the participants look to the future of pediatric dentistry in their context.

【Slide 22】

Finally, I would like to explain some details regarding the budget for this congress.



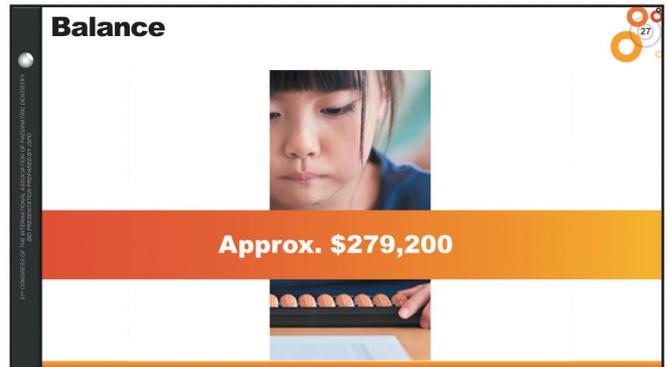
【Slide 24】



【Slide 25】



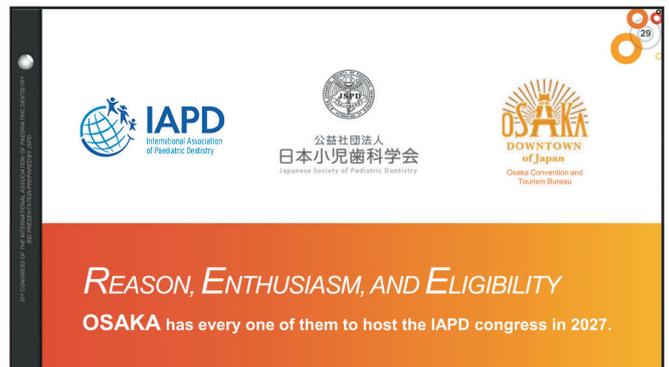
【Slide 26】



【Slide 27】



【Slide 28】



【Slide 29】



【Slide 30】



【Slide 31】

[Slide 23] Since many IAPD members will wish to come to Osaka from their home country rather far away, we propose that the registration fee be as low as possible. This concept is also for the sake of the many pediatric dentists from low-income Asian countries who wish to join the congress. The JSPD is ready to provide more than 100 million yen, or 0.7 million US dollars, which we have saved over the past 20 years in anticipation of hosting another IAPD Congress in Japan. In addition, the Osaka Convention Bureau has kindly offered to provide 43 thousand dollars and the Osaka Tourism Agency 14 thousand dollars for our congress. Along with those funds, we will do our best to increase revenue from sponsorship and exhibition sources. As I mentioned, more than 30 companies are sponsorship members of the JSPD and will surely be glad to help support the congress. For example, SHOFU company, whose headquarters are nearby in Kyoto, has already declared that it will support for holding an IAPD Congress in Japan.

[Slide 24] Overall, we expect that the total revenue will be approximately 1.35 million dollars.

[Slide 25] As for expenditures, first I would like to explain the fixed costs. We estimate that approximately 800 thousand dollars will be needed. The OICC venue and audio-visual equipment fee are estimated at 400 thousand dollars. In addition, the invited speakers' transportation and accommodation fees and honorariums are estimated at total 200 thousand dollars. The printing fee is estimated at 20 thousand dollars, and marketing and promotion costs will be 30 thousand dollars. As for pre-congress administration costs, we estimate 90 thousand dollars, while the insurance fee is estimated at 2.4 thousand dollars. Additionally, an IAPD hosting fee of 40 thousand dollars and abstract-related costs of 30 thousand dollars are appropriated. As for IAPD board expenses, the estimate is 30 thousand dollars.

[Slide 26] Next, I would like to talk about variable expenditures. We estimate that approximately 260 thousand dollars will be needed, including 200 thousand dollars for catering and social events, 15 thousand dollars for local committee expenses and entitlements, and 7.2 thousand dollars for free registrations.

[Slide 27] Thus, the balance is estimated to be approximately 280 thousand dollars. Since the Japanese economy is stable and inflation is lower than in most other developed countries, we do not expect this estimate to increase significantly until the time of the congress because of domestic factors. Nevertheless, a re-estimate will be necessary if prices rise due to external factors, such as global inflation or significant price fluctuations.

[Slide 28] To finish my presentation, please let me talk a little about former Professor Sadahiro Yoshida, the chair of the 13th IAPD Congress in Kyoto. He was the first head of the Pediatric Dentistry Clinic of Osaka University Dental Hospital, my senior head by three generations. It is very moving for me to think that he, too, was watching a view like mine today.

[Slide 29] Now I state again that the JSPD is very enthusiastic about hosting the 31st IAPD Congress in Osaka, Japan, and we are prepared to make every effort to lead the congress to success.

[Slide 30] We look forward to welcoming many IAPD members to gather for "Looking to the Future of Paediatric Dentistry" with us. Thank you very much for your kind attention. If you have any questions, I will be pleased to answer.

[Slide 31]



小児歯科医療の将来を見据えて

第42回日本小児歯科学会近畿地方会

大会長 増田 勝彦

この度、大阪大学大学院歯学研究科小児歯科学講座の担当で、令和5年10月22日（日）に、第42回日本小児歯科学会近畿地方会を千里ライフサイエンスセンターにおいて開催させていただくこととなりました。この度、大会長を務めさせていただきます同講座の臨床教授を拝命しております増田歯科医院の増田勝彦です。この度は、このような貴重な機会をいただきました近畿地方会会長 仲野和彦先生をはじめ、会員の皆様に厚く御礼申し上げます。

近畿地方会はたくさんの先輩方の御尽力のもと、これまでに輝かしい歴史を築いてまいりました。ホットな話題としましては、本会会長の仲野先生のご尽力もあり2027年に第31回国際小児歯科学会大会の大阪開催も決定しております。近畿地方会はもちろん日本小児歯科学会にとりまして歴史的なイベントになることは間違いありません。これを機に、本学会が小児歯科医療にさらなる貢献を期待できると思いますし、小児歯科学が学際的研究分野としてこれまで以上に広く発展していく非常に良い機会であると感じております。

このような背景のもと、今大会では「小児歯科医療の将来を見据えて」をテーマに開催させていただくことにいたしました。特別講演は、大阪大学歯学部附属病院 病院長であり、同大学大学院歯科保存学講座教授の林 美加子先生に、「診療ガイドラインに沿ったう蝕治療：非切削でのマネジメントと歯髄保護」と題して、ご講演いただきます。また、教育講演としまして、「隣接領域から小児歯科を考える」をテーマに、大阪大学歯学部附属病院にてご活躍の口腔外科の横田祐介先生、同矯正科の黒坂 寛先生に、それぞれのお立場から、日常臨床での小児歯科治療における勘所をご教示いただけるようお願いしております。さらに、歯科衛生士セミナーといたしましては、朝日大学歯学部口腔病態医療学講座障害者歯科分野教授 岩瀬陽子先生、同大学医科歯科医療センター障がい者歯科・包括支援歯科医療部 主任歯科衛生士 長屋優里菜先生に、それぞれ歯科医師と歯科衛生士のお立場から小児歯科医療における医療安全について、ご講演いただきます。

COVID-19 の流行により、長い間、制限のある日常生活を強いられてきましたが、行動制限が緩和され、以前のような日常に戻りつつあります。小児歯科医療に携わる諸先生方におかれましても、大変な時期を乗り越えてこられたかと思います。今後は、この経験を活かして、社会の変化に応じた小児歯科医療を展開していくことが重要となると考えております。

本大会では、多くの方々にご参集いただけますよう心よりお待ち申し上げます。また、会員の皆様方には、本大会の充実に向けてお力添えの程どうぞよろしくお願い申し上げます。

第42回日本小児歯科学会近畿地方会大会および総会

メインテーマ

『小児歯科医療の将来を見据えて』

日 時：2023年10月22日（日）9：30～17：00（9：00 受付開始）

会 場：千里ライフサイエンスセンター

[北大阪急行（地下鉄御堂筋線乗り入れ）千里中央駅北出口すぐ]

大 会 長：増田 勝彦（大阪大学大学院歯学研究科小児歯科学講座 臨床教授）

準備委員長：大川 玲奈（大阪大学大学院歯学研究科小児歯科学講座 准教授）

大会事務局：〒565-0871 大阪府吹田市山田丘1-8

大阪大学大学院歯学研究科小児歯科学講座内（事務担当 西島真由美）

Tel：06-6879-2962 Fax：06-6879-2965 E-mail：nishijima-m@office.osaka-u.ac.jp

大会ホームページ：<http://jspd-kinki.umin.jp>

参 加 費：歯科医師 5,000円／歯科衛生士・その他 3,000円／学生 無料

大会内容：(1) 2023年度総会

(2) 特別講演

『診療ガイドラインに沿ったう蝕治療：非切削でのマネジメントと歯髄保護』

林 美加子 先生（大阪大学歯学部附属病院 病院長・

大阪大学大学院歯学研究科歯科保存学講座 教授）

(3) 教育講演

『隣接領域から小児歯科を考える』

① 日常臨床に役立つ小児口腔外科処置のツボ

横田 祐介 先生（大阪大学歯学部附属病院口腔外科1（制御系）講師）

② 日常臨床に役立つ小児歯列咬合管理のツボ

黒坂 寛 先生（大阪大学大学院歯学研究科顎顔面口腔矯正学講座 准教授）

(4) 歯科衛生士セミナー

『からだの声・こころの声に耳をすまそうー気配りから医療安全を考えるー』

岩瀬 陽子 先生（朝日大学歯学部口腔病態医療学講座障害者歯科学分野 教授）

長屋優里菜 先生（朝日大学医科歯科医療センター障がい者歯科・

包括支援歯科医療部 主任歯科衛生士）

(5) 一般発表（展示発表）

大会優秀発表賞／松風 Student Award

(6) 専門医・認定医・認定歯科衛生士更新発表（展示発表）

(7) ランチョンセミナー

(8) 企業展示

日本小児歯科学会近畿地方会 2022年度収支計算書

自 2022年 4月 1日
至 2023年 3月 31日

科目	予算額	決算額	差異	執行率	備考
I. 収入の部					
事業収入					
大会収入	3,000,000	422,501	-2,577,499	14%	地方会大会収入合計（近畿地方会事務局準備金を含む）
広告収入	0	0		0%	
寄付金収入					
寄付金収入	0	0		0%	
雑収入					
受取利息	20	22	2	110%	
雑収入	0	0		0%	
当期収入合計(A)	3,000,020	422,523	-2,577,497	14%	
本部からの補助金	900,000	4,067,153	3,167,153	452%	
前期繰越収支差額	2,800,000	3,685,396	885,396	0%	
収入合計(B)	6,700,020	8,175,072	1,475,052	122%	
II. 支出の部					
事業費					
会誌刊行費	200,000	173,800	-26,200	87%	会誌・ニュースレター等
大会補助金	500,000	1,200,000	700,000	240%	地方会大会への補助金
大会事業費	3,000,000	3,889,654	889,654	130%	地方会大会支出合計
管理費					
各種委員会費	0	0	0	0%	
本部会議費	50,000	0	-50,000	0%	
事務費	500	3,960	3,460	792%	印刷費・通信費・消耗品・雑費等
ホームページ運用費	0	0	0	0%	
雑費	0	0	0	0%	
特別支出					
寄付金支出	0	0	0	0%	
予備費					
予備費	0	215,600	215,600	0%	第43回近畿地方会大会 会場契約金
当期支出合計(C)	3,750,500	5,483,014	1,732,514	146%	
当期収支差額(A)-(C)	-750,480	-5,060,491	-4,310,011	674%	
次期繰越収支差額(B)-(C)	2,949,520	2,692,058			

日本小児歯科学会近畿地方会 2023年度収支予算書

自 2023年 4月 1日
至 2024年 3月 31日

科目	予算額	備考
I. 収入の部		
事業収入		
大会収入	3,000,000	地方会大会収入合計
広告収入	0	
寄付金収入		
寄付金収入	0	
雑収入		
受取利息	20	
雑収入	0	
当期収入合計(A)	3,000,020	
本部からの補助金	900,000	
前期繰越収支差額	2,800,000	
収入合計(B)	6,700,020	
II. 支出の部		
事業費		
会誌刊行費	200,000	会誌・ニュースレター等
大会補助金	500,000	地方会大会への補助金
大会事業費	3,000,000	地方会大会支出合計
管理費		
各種委員会費	0	委員会関係の支出
本部会議費	50,000	役員会開催費・出張費・慶弔費等
事務費	500	印刷費・通信費・消耗品・雑費等
ホームページ運用費	0	
雑費	0	
特別支出		
寄付金支出	0	
予備費		
予備費	0	
当期支出合計(C)	3,750,500	
当期収支差額(A)-(C)	149,520	
次期繰越収支差額(B)-(C)	2,949,520	



第41回日本小児歯科学会近畿地方会大会を振り返って

第41回日本小児歯科学会近畿地方会大会

大会長 竹安 正治

新型コロナウイルス感染症第7波が収束し、様々な規制が緩和されつつあった令和4年10月23日に「第41回日本小児歯科学会近畿地方会大会」を無事開催する事が出来ましたこと、この場をお借りして厚く御礼申し上げます。

令和3年2月、ゴルフの昼食休憩時に「次の近畿地方会大会長に推薦したよ」と地方会幹事の松尾博之先生から電話連絡を頂き、昼からのゴルフはいつも以上に走りまわり、疲れて帰宅したのを昨日のように覚えています。その後、仲野和彦会長から正式にご連絡を頂き、地方会幹事・大会長という重責を拝命しました。大阪歯科大学勤務時代に、学会の手伝い等をした経験はありましたが、大会長として何から始めてよいのか分からず悩んでいたところ、新門正広先生に準備委員長を快諾して頂き、徐々に不安が解消していきました。その後、準備委員として梶本祐一郎先生、深尾正先生、松尾先生にお手伝いいただき準備を進めることが出来ました。大阪歯科大学での開催ということで仲野会長、原田京子副会長には些細なことまで質問をさせて頂きましたが、丁寧にご返答頂き大変心強く感じました。



緊急事態宣言によって中止となった第39回大会（大会長：有田憲司先生）のメインテーマであった「人生100年時代に生きる子どもたちの健康歯援」を、今大会のメインテーマとして継承させて頂きました。小児歯科医療は新時代に入り、子どもたちを取り巻く生活環境が大きく変化する中、子どもの未来と歯科の未来に思いを馳せ、今後ますます子どもの口腔健康の実現を促せるよう各種講演を企画しました。

特別講演では、テレビ等でもご活躍の防災家・危機管理アドバイザーである野村功次郎先生に『大災害その時どうする、どうなる、生きる力とは』というテーマでご講演いただき、「予測（チェック）」「予防（アクション）」「対応（トレーニング）」の重要性について再確認させて頂きました。

教育講演では、日本ヘルスケア学会代表である杉山精一先生に『う蝕治療はカリエスマネジ

メントの時代へ』というテーマでご講演頂き、新しいう蝕診断システム「ICDAS」、「フッ化物の知識整理」、「カリエスリスクアセスメント」について学ばせていただきました。

認定歯科衛生士セミナーでは弁護士法人フラクタル法律事務所の田村勇人先生に『善良な患者をクレーマーにさせない対応法と専門家サービスの本質』というテーマでご講演いただき、実際のクレーム事例や訴訟事例を見ながら、適切な対応法等についてご説明いただき、大変参考になりました。

企業協賛セミナーでは、鹿児島大学病院発達系歯科センター小児歯科講師である稲田絵美先生に『口唇閉鎖不全の弊害と臨床での対応法について』というテーマでご講演いただき、実際の症例を提示して頂きながら「りっぷるくん」を使用した各種トレーニング法とトレーニングによって得られる効果についてご説明いただきました。

今大会は会員・非会員共に参加費無料で開催されました。依然としてコロナ禍という状況の下、3年ぶりの対面開催であったため、参加者が少なくなるのではと懸念しておりましたが、一般発表25演題、企業展示6社、参加者354名と盛会のうちに終えることができました。本大会の開催にあたり、日本小児歯科学会担当理事の先生方、近畿地方会会長、近畿地方会幹事の先生方、準備委員長、準備委員の先生方、大阪歯科大学小児歯科学講座の先生方、協賛頂きました企業様ならびに関係各位、ご支援賜りました多くの皆様に深く感謝を申し上げます。

今回の第42回近畿地方会大会は令和5年10月22日（日）に、大会長増田勝彦先生のもと千里ライフサイエンスセンターにて開催されますので、多数のご参加をお願い申し上げます。





第41回日本小児歯科学会近畿地方会大会 大会優秀発表賞
下顎第一大臼歯の発育の年代差について

大阪歯科大学小児歯科学講座
阿部 洋子

このたびは大会優秀発表賞をいただき誠にありがとうございました。

本研究は有田憲司名誉教授の指導のもと「日本人小児における乳歯・永久歯の萌出時期に関する調査研究Ⅱ」に携わったことがきっかけとなり、永久臼歯の萌出が30年前の調査時より遅くなっている要因は何だろうという疑問から始まりました。また、1980年代生まれの小児のパノラマエックス線画像が保管されていたことで本研究が具現化したことは私共にとって幸運なことでした。これまで当講座に在籍されたすべての先生と来院された患児の皆様に心より感謝申し上げます。

永久歯の萌出時期のみならず歯胚の発育にも年代差が認められるか否かについて、貴重な資料を活用し、今後も追究していきたいと考えています。



第41回日本小児歯科学会近畿地方会大会 大会優秀発表賞
下顎右側第二大臼歯歯胚の歯嚢に異常拡大を認めた1例

大阪大学大学院歯学研究科小児歯科学講座
落合まりん

この度、2022年10月に開催された第41回日本小児歯科学会近畿地方会大会で行った「下顎右側第二大臼歯歯胚の歯嚢に異常拡大を認めた1例」の発表に対し、優秀発表賞を頂き大変光栄に存じます。

本症例は、初診時のパノラマエックス線画像における気付きから、口腔外科医とともに病理組織検査を通して確定診断に繋げることができました。本症例に関しては、今後永久歯の萌出まで経過観察を継続する予定です。また、この症例を通して得た経験や知識を、他の症例においても生かしていきたいと思っております。

最後になりましたが、本症例における診療および症例発表を行うにあたり多大なるご指導をいただきました仲野和彦教授をはじめとする先生方に深く御礼申し上げます。



第41回日本小児歯科学会近畿地方会大会 大会優秀発表賞
上顎両側第一大臼歯の異所萌出を3D Lingual Arch
(Wilson) のエクステンダーを使用して治療した1例

ハービー歯科・小児矯正歯科（大阪府）

小川 慶知

この度は優秀発表賞にご選出いただきまして誠にありがとうございます。そして、選考委員の先生ならびに学会関係者の皆様に、この紙面をお借りして心より御礼申し上げます。

今回の症例報告は、3D Lingual Arch（Wilson）という矯正装置を使用して上顎第一大臼歯の異所萌出を治療した報告になります。少しでも同じような症例での診療の一助になればという思いで報告させていただきました。今回の受賞を励みに、今後も一例一例の症例と真摯に向き合って臨床経験を積んで参りたいと存じます。この度は誠にありがとうございました。



第41回日本小児歯科学会近畿地方会大会 松風スチューデントアワード
睡眠時ブラキシズムを認める小児の口腔機能および睡眠に関する検討

大阪大学大学院歯学研究科小児歯科学講座

角野 舞香

この度、第41回小児歯科学会近畿地方会大会での「睡眠時ブラキシズムを認める小児の口腔機能および睡眠に関する検討」の発表に対し、松風スチューデントアワードを頂きました。このような名誉ある賞を頂き、大変光栄で嬉しく存じます。

本研究では、臨床現場にて比較的高頻度で遭遇する小児の睡眠時ブラキシズムに着目した解析を行い、小児における睡眠時ブラキシズムは睡眠障害や鼻疾患と強く関連する可能性が示されました。今後は調査規模を拡大し、さらに睡眠時ブラキシズムと睡眠障害との関連を調査したいと考えています。

末筆ながら、本研究および研究発表を行うにあたり多大なるご指導を賜りました仲野和彦教授をはじめとする先生方に深謝致します。

地元のとおき ～ 家族で楽しめる千里・北摂のスポット ～

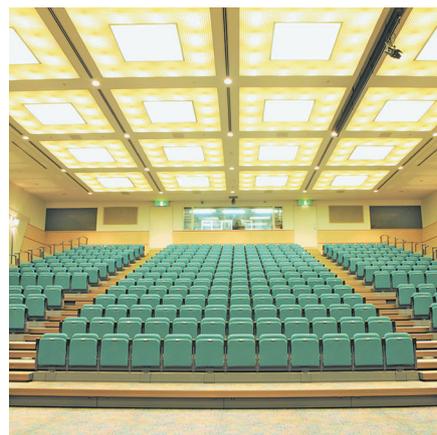
大阪大学大学院歯学研究科小児歯科学講座 落合まりん

第42回日本小児歯科学会近畿地方会大会の開催地である、千里・北摂周辺の情報をお伝えします。今回は、家族で楽しめるお出かけスポットを紹介します。

① 千里ライフサイエンスセンター（豊中市・大会会場）



千里に立地する「知の交流拠点」として、学術会議、各種セミナー、展示会など多種多様な交流に活用されています。同じビル内にはクリニック、飲食店、学習塾などがあります。また、最寄駅である千里中央駅からは約2分という好立地であり、駅周辺は多くのお店で賑わいます。



② 服部緑地（豊中市）



東京ドーム33個分の広大な敷地には、緑豊かな自然に加え家族で遊べるスポットが盛りだくさん。バーベキュー場、大型遊具のある広場をはじめ、植物園、博物館、乗馬センターなどがあり、夏には野外プールも楽しめます。また、日常の散歩コースにもオススメです。



③ 勝尾寺（箕面市）



約1300年の歴史があり、古来より「勝運」のお寺とされています。現在でも試験・商売・就職・スポーツなど、あらゆる場面での勝利を祈る参拝者が後を絶たず、奉納されたたくさんの勝ダルマが境内のあちこちに見られます。秋の紅葉スポットとしても人気です。



④ 箕面の滝（箕面市）



「日本の滝百選」に選定されており、その流れ落ちる滝の姿が農具の「箕」に似ていることから、箕面大滝と呼ばれるようになり、地名の由来もここから来ていると言われていています。秋の紅葉スポットとして有名です。

滝までの川沿いの道のりを歩くと、マイナスイオンを浴びながら、日頃の運動不足を解消することができます。また、名物のもみじの天ぷらは、お土産や食べ歩きにオススメです。



⑤ 太陽の塔（吹田市）



大阪のシンボルとも言える太陽の塔は、高さが70mあり、近くを走行する大阪モノレール内からもよく見えます。2018年からは塔の内部が常時公開されており、夜のライトアップも魅力的です。

太陽の塔がある万博公園内には、世界最大級の巨大アトラクションや、季節の花が楽しめる自然文化園のほか、いくつかの文化施設があり、何度行っても楽しめる場所となっています。



最後に、北摂地域のゆるキャラを紹介します。



セッピー（摂津市）

胸に描かれたハートに宿る幸せを市内に運んでくれます。「緑豊かで環境に優しいまちに」との思いから、緑の体になったといわれています。



滝ノ道ゆずる（箕面市）

大粒で風味や香りの強い箕面の柚子をアピールするのが仕事です。趣味は滝道散歩であり、「拙者」「ござる」が口癖です。

《日本小児歯科学会近畿地方会》

2023年度役員名簿

会 長 (常任幹事)	仲野 和彦
副 会 長 (常任幹事)	春木 隆伸 ・ 原田 京子
常任幹事	阿部 洋子
会 計	大川 玲奈 ・ 佐々木秀和
庶 務	岡本 篤剛 ・ 石井 信行
監 事	池尾元三朗 ・ 大橋 健治
顧 問	嘉ノ海龍三 ・ 梶本祐一郎 ・ 樂木 正実
歯科衛生士会	永井るみこ
大 学	鋸屋侑布子 ・ 増田 勝彦 ・ 園本 美恵
滋 賀 県	池本 博之
京 都 府	石橋 淳 ・ 桑原 茂久 ・ 杉本 勘太 ・ 仲岡 佳彦
奈 良 県	生野 伸一 ・ 中川 佳昭 ・ 林 昌司 ・ 松下 標
和歌山県	沖殿ちひろ ・ 金尾 好章 ・ 田岡 郁敏
大 阪 府	浅田 匡彦 ・ 吾妻 昭夫 ・ 大西 智之 ・ 川口 護 榎原 康生 ・ 佐々木有美 ・ 新門 正広 ・ 副島 之彦 竹安 正治 ・ 中原 弘美 ・ 松尾 博之
兵 庫 県	金澤 真亨 ・ 亀井有太郎 ・ 佐伯 克彦 ・ 坂田 滋 竹内 幸雄 ・ 徳永順一郎
名誉会員	祖父江鎮雄 ・ 大嶋 隆 ・ 嘉藤 幹夫 ・ 有田 憲司

●編集後記

オランダのマーストリヒトで行われた IAPD2023 に参加しました。32年前、歯科医師になりたての頃、IAPD 京都大会に参加して以来の国際小児歯科学会です。私はポスター発表を行いました、英語で説明しなければならず、久しぶりの英語を度胸だけで突破してきました。4日間にわたって行われ、日本からも100人を超える先生方が参加されていました。2027年開催地決定の大会でもあります。大阪に決まるかどうか、固唾をのんでおりましたが、仲野先生の素晴らしいプレゼンで、無事大阪大会に決定しました。4年後といってもあつという間です。地元近畿地方会も一丸となって、2027年 IAPD 大阪大会を盛り上げていきましょう。(T.H)

今回、会報発行にお手伝い頂いた方々

阿部 洋子・仲野 和彦・増田 勝彦・竹安 正治
大川 玲奈・落合まりん・小川 慶知・角野 舞香
田中純一郎・春木 隆伸・佐々木有美・西村 貴子
石井 信行 (敬称略)

《住所変更(会誌送付先の変更)方法》

住所変更を含む会員情報の変更は、OHASYS のマイページから各自変更を行って下さい。

OHASYSログインページ

<https://ohasys.net/login>



日本小児歯科学会近畿地方会 HP
<http://jspd-kinki.umin.jp>



令和5年9月1日 印刷

令和5年9月15日 発行

発行者 公益社団法人 日本小児歯科学会近畿地方会
編集委員会

印刷所 日昌印刷(株)